



「理科少年」が仕事を変える, 会社を救う
—「人性」をイノベーションする新思考法—

出川 通 著

彩流社, 2008年6月,

191頁, 1500円 (本体価格)

ISBN 978-4-7791-1032-0

人目を引くタイトルの本であるが, その内容は MOT (技術経営), 言い換えればイノベーションマネジメント, さらに具体的なプロジェクトマネジメントについて述べたものである。

本書の原型は, リクルート社の「リクナビ NEXT Tech 総研」というサイトにおいて「技術者人性の法則」という原題で連載されたものをベースに加筆・改稿されたものである。

著者の経歴を見ると, 工学系大学院修了後大手重工業メーカーで各種の新事業を, 産学連携, ベンチャー企業と創出し, コーポレートベンチャーや社外ベンチャー企業を経験した後, 現在は社内外の企業の新規事業の立ち上げのコンサルティングを主に行っている。

本書では自分の専門性を大事にする人々を総称して「技術者」と呼び, それを象徴的に「理科少年」と呼んでいる。そして, 技術者の持つ理科少年の「性(さが)」にこだわっている。

本書の内容を説明するためには, 目次とその副題や, add on として追加された書下ろし原稿の題を示すことが最も適切であると思われるので, 先ず目次を示す。

プロローグ・・・なぜ「理科少年」なのか

第1章 理科少年には3つのタイプがある

add on 楽しいことと自分の強み (コンピテンシー)

第2章 技術者=理科少年は「団子より花である」

「魔の川と死の谷」とは～技術の商品化への道のり

第3章 「100点-99点≠1点」の法則

add on 可能性と成果主義の違い～ロードマップ,

マイルストーンによる100点評価の明確化

第4章 トラブルが宝の山に見えてくる

add on トラブルは顧客とのインターフェース～技術とマーケットとの会話

第5章 センス or カン→技術者=理科少年の実力

add on イノベーション時代のスキルアップの方法

～その不確定さを乗り越えるためのセンスとカン
第6章 技術も技術者も“生きもの”である

add on プロジェクト・マネジメント～管理ではなくマネジメントの必要性和重要性

第7章 理科少年は楽観的である

add on 豊かな時代の起業家精神とは～技術者の自立・自律

第8章 「不完全なハイテク」に心が躍る

add on 産学連携はどうして難しいのか～ハイテクが名誉になる世界とローテクがお金になる世界

第9章 スピードだけでは物足りない

add on 環境変化への対応とリスクヘッジ

第10章 理科少年の本性はセクシーである

add on ライフ・ワーク・バランス～技術者のセクシーさの世界

エピローグ 自立・自律性と共鳴～イノベーションのエンジンは理科少年

このように目次を見ると分かるように, 「理科少年」をキーワードとして, MOT の視点からイノベーション時代の技術開発のあり方や技術者の生き方について述べている。著者は日本では, 1990年代以降, 技術者を取り巻く環境 (=パラダイム) が大きく変わったと認識し, それはプロセス・イノベーションからプロダクト・イノベーションへの転換であると述べている。それまでの日本では, いわゆる「つくりの工程」を革新していく「プロセス型のイノベーション」の徹底的追及であったのが, 新製品・新商品へのイノベーション, すなわち「プロダクト型」のイノベーションにおいてこそ付加価値が生まれるという考え方に変化し, プロダクト・イノベーションに合致した技術者が求められるようになったと, 著者は述べている。

本書に述べられている内容は産学官連携などに携わる関係者にとっては既知のことが多いかもしれない。評者も研究管理に携わっている時にこのような会議に度々参加し, 「死の谷」などの言葉を知ったことを思い出した。

それはさておき, 本書の内容は多くの学会員にはあまり縁のない世界の事と思われるが, MOT の考え方が詳しく述べられており, またプロジェクトに適用した例なども述べられていることから, 今後プロジェクト管理に関係する方々には参考になるのではないかとと思われる。

((財) 日本気象協会 藤谷徳之助)